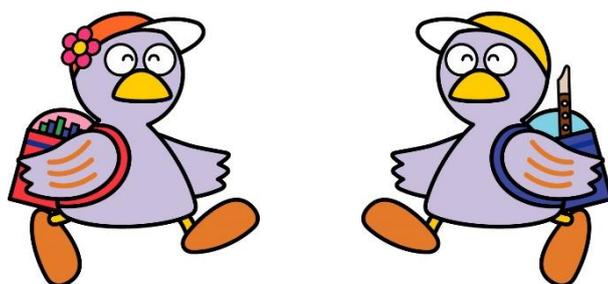


スクールガード 活動マニュアル

～子供たちの安心・安全の確保のために～



埼玉県マスコット「コバトン」

令和4年3月 改訂

埼玉県教育委員会

スクールガードの活動

代表的な活動例です。

学校と相談し、できる範囲の活動から始めていくことが大切です。小さな活動でも、継続することが何より重要です。

○登下校指導

- 子供たちの安全確保のため、学校周辺や危険箇所などに立って見守りや指導を行います。
(中・高校生への声かけや見守りをすることも)

○通学路安全パトロール

- 見守り活動と同時に通学路の危険箇所等を点検し、学校に情報提供します。



○学校内外の安全点検

- 教員とは違った視点で校舎や学校周辺の危険箇所を点検し、学校に情報提供します。

○防犯教室や地域安全マップづくりなどへの参加や協力

- 学校で行う防犯に関する行事などに参加したり安全マップ作成の活動に協力して、子供たちへのアドバイスをしたりします。

活動上の留意点

○目立つ色の服装で活動する。（推奨：蛍光色）
・ベスト、ジャンパー、帽子、たすき等を着用。

○メモ帳等の筆記具、ホイッスルや
防犯ブザーを携帯する。

○危険場所のポイントに注意。

○子供たちへあいさつや注意喚起、
「〇〇に気を付けてね」などの言葉かけをする。

○スクールガード自身の安全確保のため、
複数で活動する。

○交通安全に配慮する。



※危険発生時には・・・

○子供を被害から守ることを第一に考え、子供を危険から遠ざける。

○自分自身の安全を確保する。

○時間、場所、不審者等の様子などを、すぐに書き留める。

○学校、警察、必要に応じて消防（救急車）への連絡を迅速に行う。

事件・事故発生するとき

子供が交通事故に遭ってしまったら…

○警察・消防・学校への連絡

- ・ 救急車の要請（119へ通報）。
- ・ 事故発生状況を迅速に連絡。



○目撃情報のメモ

○子供の救護（必要に応じて）

- ・ けがの状況によっては、応急処置が必要です。近くにいる人に協力を求め、救急車が到着するまでの処置をします。



①周囲の安全確保

周囲の安全を確認し、危険な場所ならば安全な場所へ移動

②容態観察

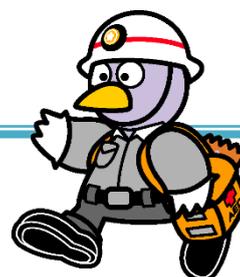
意識・呼吸の有無、けがの様子・出血

③応急手当

気道の確保・止血・心肺蘇生・AEDの使用等



※ 心肺蘇生法（胸骨圧迫、人工呼吸）やAEDの使用方法、応急手当などを学ぶ「救命講習会」は、消防署などで実施されています。



不審者を発見・目撃したときには…

○警察・学校への連絡

○目撃情報のメモ

○子供の救護

- ・子供の心のケアに配慮する。
「一緒にいる」「安心できる場所に移動する」
「話を聞く」など
- ・学校、子供の自宅へ送り届ける。



— 事件・事故発生時のメモ！ —

警察や学校などに、正確な情報を伝えるため、その場ですぐにメモを取ることが大切です。

○いつ 月・日・曜日・時刻

○どこで 町名・番地や目印になる建物や店舗、
電柱の記号番号

○不審者（加害者）等の様子

身なり・服装、体つき、自転車・
バイク・自動車などの乗り物（可能な
らナンバー）、凶器の有無 など

○子供の様子 けがの有無・容態 など



こんな時は・・・

下校途中などで、中・高校生や大人などの集団がいて、小学生が怖がっている・・・

○小学校へ連絡

- ・ 該当の学校への連絡が必要なときは、小学校からしてもらおうようにしてください。

○複数で対応

- ・ 相手に注意喚起の言葉かけをしなければならぬ場合には、安全確保のため、必ず複数で話をしてください。



○怖がっている子供と一緒に歩く（通る）

- ・ 子供に安心感を与えるには、一緒に行動するのが一番です。できるだけ早く、その場から離れるように配慮してください。

地域の人などから苦情を言われたら・・・

○苦情を聞く

- ・ 相手の方の話を聞き、内容を把握してください。

○活動の登録をしている学校や教育委員会等への連絡と相談

- ・ 苦情の内容や相手について伝え、対応について相談をしてください。



危険個所を見分けるポイント

以下に示したのは、犯罪が起こりやすいと言われる場所の特徴です。パトロールの視点、子供たちに注意を呼びかける際の参考にしてください。

○入りやすい

- 出入り口がたくさんあったり、どこからでも出入りができたりする所
 - 侵入路や逃げ道が確保しやすい



○見えにくい

- 塀や壁、生け垣などに囲まれている所
 - 人の視線がさえぎられ、死角をつくり隠れることができる

○人の関心が薄い

- ゴミや落書きが放置されていたり、草が茂っていたりするなど、人の手がかけていない所。
 - 犯罪を犯しても、見過ごされる

※放置されている粗大ゴミ等を見つけたら・・・

学校へ連絡・相談し、市役所の担当課、警察などの関係機関、場合によっては該当する自治会・町会などに知らせて、しかるべき方法で処理をしてもらってください。



子供たちの安心・安全の確保のために

スクールガード・リーダーは

○担当校を中心に巡回指導などを行う

＜地域学校安全指導員＞

埼玉県内各公立小学校に1人ずつ配置（令和4年度587名予定）



学校と連携して

○学校内外での子供たちの安全を確保する

○安心して安全に学習できる環境を守る

スクールガードは

○各学校区を中心に、組織的に自主的活動を行う

＜学校安全ボランティア＞

埼玉県内で26,702人が活動

（令和3年度学校健康教育実践状況調査より）



スクールガードの活動は、子供たちの安全を守るだけでなく、犯罪者を寄せ付けない雰囲気醸成されるなど、地域全体の防犯に貢献すると言われています。

「守る」活動をする多くの人の姿が、犯罪者をその地域から遠ざける要因になります。



緊急時の連絡先

学校名： _____ 学校

校長名： _____

教頭名： _____

住所： _____

電話番号： _____

FAX番号： _____



警察： _____ 警察署

電話番号： _____

FAX番号： _____



その他（名称） _____

電話番号： _____

FAX番号： _____



Save our children's
Future



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

氏 名： _____

活動している
学 校 区 _____